

ガーデンシティふかや推進室 [ふかや緑の王国・深谷市榎引24-2(花植木流通センター隣)] ☎551-5551

花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!

第21回 ふかや花フェスタ & オープンガーデンフェスタ

4/27 土 28 日

午前10時～午後5時 (28日は午後4時まで)

会場 秩父鉄道ふかや花園駅前
緑地広場 ほか



今年は**39**軒のお庭がオープン

会場では、各団体によるダンスパフォーマンスなどのステージイベント、コンテスト参加作品の展示、花の装飾や飲食・物販などの出店により皆様のご来場をお待ちしています。

● 花フェスタガーデニング教室参加者募集! 【定員:各20人 申し込み:4月10日(水)から電話でふかや緑の王国へ】

【4月27日(土)】

① 藤籠を使った寄せ植え教室

とき 午前10時～11時

参加料 3,000円

講師 日本ハンギングバスケット協会埼玉支部



② 多肉植物の寄せ植え教室

とき 午前11時30分～午後0時30分

参加料 2,500円

講師 ラ・パンセ(グリーンアドバイザー)



③ バラで作るブーケ教室

とき 午後1時～2時

参加料 2,000円

講師 本庄バラ園



④ 寄せ植えリース教室

とき 午後2時30分～4時

参加料 3,500円

講師 日本ハンギングバスケット協会埼玉支部



【4月28日(日)】

⑤ 初夏の草花を使った寄せ植え教室

とき・参加料 午前10時30分～11時30分・2,000円

講師 星野学氏(テクノ・ホルティ園芸専門学校非常勤講師)



⑥ 初夏を楽しむハンギングバスケット教室

とき・参加料 午後1時～3時・3,500円

講師 日本ハンギングバスケット協会埼玉支部



公共交通機関の利用にご協力ください

当日は会場周辺道路の混雑が予想されます。またメイン会場駐車場には限りがあるため、来場の際は電車・バスのご利用をお願いします。

【無料運行】

・シャトルバス

区間 JR深谷駅南口～秩父鉄道ふかや花園駅

※28日(日)は深谷ビッグタートルを経由します。

時刻表など詳しくは「ふかや花フェスタ」ホームページをご覧ください。▲ホームページ

・トックトック(約400m・随時)

区間 秩父鉄道ふかや花園駅前口～深谷テラスパーク



深谷オープンガーデンブック2024 販売!

オープンガーデンめぐりには、各ガーデンの写真が掲載されたオープンガーデンブックをぜひご利用ください。



発売日 4月15日(月)

販売場所 ふかや緑の王国、花フェスタ会場、オープンガーデン臨時案内所(深谷市役所内)、シャトルバス発着所(JR深谷駅南口、秩父鉄道ふかや花園駅) ※ふかや緑の王国以外は花フェスタ開催期間中のみ販売

料金 1冊500円
問い合わせ 深谷オープンガーデン花仲間 栗原さん ☎090-7183-3481

王国からのお知らせ!

暖かくなり、お出掛け日和になってきました。春のふかや緑の王国へぜひお越しください。

『ガーデンシティふかや』『ふかや緑の王国』ホームページのほか、X(旧Twitter) (@garden551)、『ふかや緑の王国』フェイスブックもご覧ください。



手話 de おはなし



手話に興味はあるけど難しそう…。そんなかたも、身近なあいさつからチャレンジしてみよう!

(手話協力 深谷市聴覚障害福祉協会)



桜



両手のひらを上下にたたき合わせながら回転し、たたき合わせながら上下の手の位置を入れ替える



入学



両手のひらを手前に向け、斜めに立てて並べて置き、両手の人差し指で作った「人」形を前へ出しながら指先を前へ向ける

障害福祉課 ☎571-1011 ☎574-6667

新紙幣 あれこれ



東京駅丸の内駅舎

新1万円札の裏面に描かれているのは、東京駅丸の内駅舎です。渋沢栄一翁が、現在の深谷市に設立した日本煉瓦製造株式会社で製造された赤レンガを使用した丸の内駅舎は、正式名称を「東京駅丸の内本屋」と言い、2003年には国の重要文化財にも指定されています。

丸の内駅舎は、『日本銀行本店本館』などの設計をしたことでも知られる、日本を代表する建築家の辰野金吾氏により設計され、その堂々たる姿で、多くの人に愛されてきました。しかし、1945年、戦災により南北のドームと屋根・内装を焼失。戦後の復旧工事にて3階建ての駅舎は多角錐型のドーム形状による2階建て駅舎として復興し、2012年に創建当時の姿に復元されました。

丸の内駅舎の象徴とも言えるのが、南北にある八角形のドームです。天井には直径27.1mにも及ぶ堂々としたたすまいのワシが8羽取り付けられ、その下には千支の方角にのっとった十一支のうち八支の彫刻が施されています。

建物の外観は、赤レンガを基調として縦横に白い石のラインを入れた辰野式と呼ばれるデザインが印象的ですが、レンガ部分には覆輪目地という自地の中央部を丸く盛り上げて仕上げる手法が使われました。復元当時はこの技術が失われていたため、途絶えた技術を1年半かけて10人弱の職人が習得し再現したそうです。

表面・裏面ともに深谷市にゆかりのある新1万円札。早く手に取って見てみてくださいね。



▲東京駅丸の内駅舎